

# 京都教区時報

京都教区広報委員会  
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局  
京都市中京区  
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2022年 司教年頭書簡 「コロナ時代を生きる信仰Ⅱ」  
「キリスト者の終活を始めよう」を受けて

第1回 生のみが我らにあらず、死もまた我らなり  
(清沢満之)

このことばは、明治時代の仏教学者の清沢満之きよさわまんしのことばです。清沢は41歳の若さで病死しますが、差し迫る死の不安のなかでも、生涯自分の生死と向かい合い続けました。

イエスさまは「空の鳥をよく見なさい：野の花がどのように育つか、注意して見なさい（マタイ6・26、28参照）」と言われました。空の鳥は「種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない」、野の花は「働きもせず、紡ぎもしない」と言われ、神さまは空の鳥を養い、野の花を装わせておられると言われました。

自然は、ありのままの姿で存在しています。種まきをしたとかしなかったとか、刈り入れをしたとかしなかったとか、倉に納めたとか納めなかったとかということに関係なく、鳥は大空に舞い上がります。働いたとか怠けたとか、紡いだとか紡がなかったとかに関係なく、植物は花を咲かせます。鳥は人間に聞かせるために心地よいさえずりをしていくわけではなく、花は人間に美しいと思ってもらうために咲いているわけでもありません。鳥のさえずりが心地よいとか、花が美しいとかと思っているのは、皆、人間側の勝手な都合です。人間の思いに関係なく、鳥はさえずって大空に舞い上がり、花は咲き乱れ、やがて枯れていきます。今あるということが、自然、宇宙の姿なの

でしょう。生に執着し、死を厭いとい、いのちを分け隔へて思い煩わづらっているのは、他ならないこのわたし自身なのだということが見えてきます。

しかし、宇宙はそのままで大いなるいのちであり、わたしはその宇宙の一部であり、およそ138億年の宇宙の歴史（その数字さえも人間のスケールで測ったものに過ぎませんが）が、わたしのなかにすべて凝縮されているのです。宇宙の歩みなしにわたしという存在はなく、宇宙もわたしなしには存在しないのです。わたしたち人間は皆、地球という名の舟の旅人であり、わたしは自らのうちに宇宙を宿しているのです。そのような大いなるいのちの広がりがあるなかで、生死くわいに拘とり、その拘とりから一歩も出るこ

とが出来ないでいるのもわたしです。わたしたちに、イエスさまは、あるがままの自然の姿、空の鳥、野の花を見てみなさいと言われました。つまり、あなたの目の前に、あなたのうちに、真実があるということを言われたのでしよう。「生のみが我らにあらず、死もまた我らなり」ということばは、あるがままのわたしの、真実に気づくようにという問いかけに他ならないのではないのでしょうか。今わたしたちは、自分自身ときちんと向き合っていますか。

京都南部地区洛北ブロック担当司祭

北村善朗

2  
2022





典礼委員会担当司祭 菅原友明

今月のポイント

どうして今になって

ミサの式次第が変わるのか？

現行の日本語版ミサ典礼書は1978年12月に発行され、40年以上にわたり使用され続けていますが、これは当時のラテン語規範版(第2版)の全訳ではなく、教皇庁典礼聖省から暫定的な認証を受けて使用してきたものです。

そのため、典礼書の改訂作業が進められてきましたが、2021年5月、ミサの主要部分である「ミサの式次第と第一(第四奉献文)」等が典礼秘跡省から認証を受けました。これを受けて2022年11月27日(待降節第1主日)から、新しい式次第を使用したミサを実施すること

になりました。なお、ラテン語規範版(第3版)に基づいたミサ典礼書の全体的な改訂作業は、今後も続けられていきますので、新しいミサ典礼書が完成するまでは今しばらく時間が必要です。よって当分の間は、現行のミサ典礼書と併用する形となります。



変更のポイントとは？

「ラテン語規範版への忠実」と 「日本への適応の適正化」

2001年3月に典礼秘跡省から公布された典礼式文の翻訳に関する指針『リトウルジウム・アウトエンティカム』は、式文の各国語訳に際して、ラテン語規範

版に忠実に翻訳するよう求めています。今回の改訂ではこの指針に従って、可能なかぎり規範版に合わせる努力がなされました。しかし、ラテン語規範版に忠実に訳した場合に、式文として唱えるのがふさわしくないとと思われる箇所等は、日本のための適応が行われています。また、反対に、現行ミサ典礼書において行っていた日本のための適応を、再検討し修正した箇所もあります。

具体的に式文はどう変わるのか、来月から紹介します。2022年11月27日の実施に向けて、しっかり準備してまいりましょう。

なお、カトリック中央協議会から『新しい「ミサの式次第と第一(第四奉献文)の変更箇所」(260円税別)』という冊子が発行されています。詳しくはこちらもご参照ください。

新しいミサの式次第については、カトリック中央協議会のホームページにも詳しく掲載されていますので、参考にしてください。左記のQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと、そのページが開きます。



乾隆神父のイタリア留学記(8)

京都教区司祭 大塚乾隆

前回の教区時報で「何かご質問があれば」と書きましたので、今回はそれにお答えします。

① 大学の様子

こちらは10月から新年度が始まりますので、この原稿を書いている12月上旬は、前期が始まって、間もなくクリスマス休暇を迎えようとしている頃です。

昨年は、コレジオ内でコロナの陽性者が出たので、10月に新年度が始まって2週間だけ学校に通い、全員自主隔離を余儀なくされ、隔離期間が終わってようやく登校できるはずでしたが、イタリアの感染状況がひどかったため、全学でオン



大学に行く時はローマンカラーで正装です

ライン授業になりました。結局その後も前期はオンライン授業のままでしたが、僕は最初の2週間とテストのためだけ大学に行きました。その後2月半ばから後期が始まりましたが、後期も復活祭前後でオンライン授業が取り入れられました。

今年は幸い、10月から今まで対面授業が続けられています。2年生と3年生が同じ授業を受けるので、大教室に40〜50人の学生が集まって授業を受けています。もちろん、イタリアの法律で建物の中はマスク着用が義務付けられているので、学校で見ると同級生の顔は「マスク姿」が当たり前になっています。何かの時にマスクを外すと、「あっ、こんな顔だったね」と驚く感じです。

② 授業の様子

2年目なので去年ほどの苦しさはありませんが、相変わらずラテン語に悩まされています。「ラテン語は死んだ言葉」と聞いていましたが、今でも教会裁判所の判決文はラテン語で書かれていますので、それを理解しないといけません。少なくとも、この「業界」では死んでいませんでした。判決文なので、「何となく理解する」のではダメで、動詞の細かいところまで突っ込まれます。大変ですが、そのうち慣れることを信じています。



特別な日のおやつ 洋もいけどやっぱり和!

③ 住んでいるところ

前にも書きましたが、ポルトガルの司教団が運営している寮に住んでいます。バチカンの城壁から5分ぐらいのところ。こう書いたのは、「差し入れ」を期待しているからです。でも、大丈夫です。コロナのせいで航空便が減少し、10月15日から日本郵便が船便以外の荷物の受け入れを止めていますので、お気持ちがありがたく頂戴いたします(笑)。

このシリーズを続けるためにも、これからも皆さまからの質問にお答えしたいと思っております。素朴な疑問でも何でも構いません。

どうぞこちら

kenryuotsuka@kyoto.catholic.jp までメールを頂ければ、可能な限り教区時報上でそれにお答えしたいと思います。

## 「いのち・平和・環境の日」の集い on zoom 2021年11月13日(土)



カトリック京都司教区  
「いのち・平和・環境の日」の集い  
**エコロジーから人権まで**  
講話 奥村 豊師 (京都教区司祭)



「コロナ禍」をどう見るかと共に、ともすれば別々に考えてしまいがちな「いのち」と「平和」と「環境」が、どのように一つにつながっているのかを考えるよい機会となりました。

約50分の講話に続き、質疑応答が行われ、短い時間ではありましたが中身の濃い内容でした。また、教区外や他宗派の方の参加もあり、オンラインならではの集いとなりました。

講話は教区ホームページから、また、下のQRコードを読み取ってご覧ください。

報告／福音宣教企画室



いのち・平和・環境の日  
「いのち・平和・環境の日」の集い  
2021年11月13日(土)  
講話 奥村 豊師 (京都教区司祭)

京都教区では2018年より、年間第33主日の「貧しい人のための世界祈願日」の前日の土曜日を、教区「いのち・平和・環境の日」とし、趣旨に沿った集いを行っています。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催を見送らざるを得ませんでした。しかし今年は「エコロジーから人権まで」というテーマで、「いのち・平和・環境」委員会の担当司祭である奥村豊神父の講話と質疑応答を、オンラインで行うことができました。

講話は「環境」を切り口に、人間も環境の一部であること、外から与えられる観念から自由になり自分自身の肌触りを信じること、科学や政府、マスメディアなどの権威から距離を置き達観することなど、この

## 小教区評議会役員交流会 2021年10月2日(土)



春の役員研修会に引き続き、オンラインで役員交流会を開催しました。34小教区から神父様方を含め、71名が参加されました。

今回は、春の研修会テーマ「コロナ禍における信仰と福音宣教」を深めるため、また、役員のみならずさらにオンラインに慣れていただくために、『ZOOMミーティングの『ブレイクアウトルーム』(参加者を少人数のグループに分ける機能)を使用して分ち合いを行うことになりました。オンラインでの分ち合いは初めてという方が多かったと思いますが、スタッフもこの機能での分ち合いは初めてだったので、リハールを重ね当日に臨みました。幸い心配していた小グループへの移行はほぼ問題なく実行でき、またグループ人数を4、5人に設定したことで、お互いの話をじっくり聴くことができたという感想をいただくことができました。小グループで分ち合いが行われている間、WiFi通信が不安定なために、どうしても小グループに入れない方がおられました。こういう状況を想定していなかったので少し焦りましたが、せっかく参加してくださっているので、その方とスタッフとで一緒に分ち合いをすることにしました。その後もその方の通信は何度も切れたのですが、その度に「復活しました!」と言って戻って来られ、最後まで分ち合いを続けてくださいました。通信障害というトラブルによって、スタッフも思いがけず豊かで楽しい分ち合いのひとつを過ごすことができました。

分ち合い後の司教様の講話では、「今を新たな福音宣教のためのスタートを切る準備の時ととらえて、今後の共同体のあり方を考えて欲しい」と語られたのが印象に残りました。今後も新しい福音宣教のツールとして、オンラインの経験を積み重ねていきたいと思います。

報告／福音宣教企画室

トノシロギキ

「空の空、すべては空である」



コヘレト（伝道の書）の有名な書き出しの言葉である（伝1・2参照）。この言葉はまさに「コロナ禍」に悩む現在の人々の心を表しているように、何かあきらめに満ちた、何か厭世的な嘆きの言葉に聞こえる。

だが待て。これはむしろ希望を呼び起こそうとする希望と励まし言葉ともとれる。

それを教えてくれる良い書を見つけた。「NHKこころの時代 すべてに時がある 旧約聖書『コヘレトの言葉』をめぐる対話（若松英輔、小友聡）」である。

小友氏は、「閉鎖した時代に生きる」と語りかけるコヘレトの言葉が、不思議な励ましの杖となる、と言う。

一方若松氏は、コヘレトの言葉には、これまでとは違う希望を生み出す「言葉の杖」がある。それは「無」と呼ぶ外はない「有（永遠なるもの）」

がある。そのため、神殿（自分の心）を清め、空にして永遠なるものを迎え入れるものにならねばならない、と言う。

「空」を満たすものは、神の愛と命なのである。

広報委員会担当司祭

村上透磨

2021年11月13日⑤にYES2021を行いました！ 前年と同様に、オンラインでの開催となりましたが、とても良い時間を過ごすことが出来ました。参加して下さった皆さん、ありがとうございました！

今回のテーマは、「すべてのいのちを守るため」Ⅱ ～コロナ時代を生きる信仰～でした。大塚司教様による講話の後、コロナ禍を生きる意味や、心の変化などについて分かち合いをしました。突如訪れた不条理な出来事に対してどのような念を持っているのか分かち合いました。お互いの考えや念を分かち合うことによって、沢山のことに気づくことが出来ました。

まだまだ辛い時期が続きますようですが、青年センターは皆さんが元気になれる楽しいイベントを行っていきますので、お気軽にご参加ください！

滋賀地区運営委員・唐崎教会 池田瑠智亜



つながりネットワーク 課めよう！キャンペーン  
京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を超える青少年活動について  
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、  
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

青年センターあんでな

### 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 2月のお知らせ

### 教 区

#### 福音宣教企画

##### 病者高齢者奉仕講座

テーマ「コロナ禍における新しいつながりを求めて」

日 時：25日(金) 14:00～15:30

講 師：中瀬 真弓氏(京都いのちの電話)

方 式：オンライン(ZOOM)

申 込：下のQRコードからお申込みください。

教区ホームページからもアクセスできます。ちらしも掲載しています。

お申し込み後に「自動返信メール」が届かない場合は必ずお問い合わせください。

締 切：21日(日)

参加無料 定員100名

問合せ/福音宣教企画

TEL/075(211)3025(代表)

E-mail/fukuin.kyoto@gmail.com



#### 広報委員会

教区時報のお知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛メール/honbu@kyoto.catholic.jp または Fax /075(366)6679に発信者のお名前を明記の上お寄せください。

※ 4月号の原稿締切り日は2月21日(日)です。

### 諸 団 体

#### 京都カトリック混声合唱団

練 習：13日(日) 14:00 洛星宗教研究館  
26日(土) 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂  
現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

#### コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：10日(水)、24日(水) 10:00

河原町教会 2階楽廊  
問合せ：075(701)3303 岡田久美

#### 聴覚障がい者の会

##### 手話ミサと総会

開催予定でしたが、コロナの感染拡大を考慮して中止します。

問合せ：TEL/080(2286)5314 岩佐  
Fax /075(212)2265

#### 心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

K B S 京 都 (日)～(金) 朝 5:55

(土) 朝 5:15

ラ ジ オ 関 西 (日)～(金) 朝 5:00

(土) 朝 6:05

2月のテーマ「サステナブル」  
ホームページもご覧ください。

https://www.tomoshihi.or.jp/



### 一良 書 紹 介一 回勅 兄弟の皆さん 教皇フランシスコ

利己主義による分断が進み、他者の苦しみを顧みない現代社会を具体的に検証し、開かれた世界を築く道筋を希望を持って提言する。イスラームの指導者との対話から刺激を受け執筆された、兄弟愛と社会的愛に関する回勅。

発行日：2021/9/17

価 格：税込1760円



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。  
Tel・Fax/079 (431) 8601

